

群馬県防犯設備協会の紹介



一般社団法人 群馬県防犯設備協会 会長 今井 孝夫

設立は2010年1月12日 今年、ようやく10年を迎えることができました。

現在では設立当初からの事務所を2017年に移転し前橋市本町に協会事務所を置いております。この通りは江戸時代から生糸取引の中心で多くの商家が軒を連ねていました。また、この近くには明治11年には県内各工場で引いた糸を集め検査を行い出荷をしていた前橋生糸改所がありました。現在、事務所前の本町通り一筋は金融機関が集まる場所となり、この辺りに事務所を移転したことにより、お陰様で会員数も80社を超える協力を得ることができます。

現在、群馬県防犯設備協会では県内の防犯カメラ設置に向けた各団体への協力や振り込め詐欺を根絶するための県からの委託事業などを実施しております。

今後については会員企業と協力し、安全で安心なまちづくりとともに災害からも安心して暮らせるまちづくりを進めてまいりたいと考えています。

今回、紹介させていただきますのは前橋生糸改所の跡地でもあります「前橋プラザ元気21」で会員企業による展示会の様子です。

開催したのは令和元年8月8日～9日の2日間で多くの方にご来場いただきました。

展示内容は各会員企業様の防犯カメラなど様々な機器を展示すると同時に白バイの展示、公衆電話を設置し実際のNTT回線を仮設し小学生に110番通報が体験できるコーナーを設置しました。来場者の中には各自治体の防犯や防災など危機管理を担当している方も多く来場され、実機の映像を確認したり設置方法など会員企業の担当者から説明し、後日、多くの問合せをいただきました。



展示会の様子①

展示内容について2日間通して実施した内容は、基本は群馬県防犯設備協会員企業における展示で、防犯カメラやそれに伴う可視化システム、高齢者見守りシステム、通学路安全対策や住宅の防犯として防犯フィルムと幅広く商品を取り揃え20社を超える規模となりました。目玉イベントとして、群馬県警察本部通信指令課、前橋警察署、日本公衆電話会、NTT東日本群馬支店の協力を得て会場に公衆電話を特設し来場した小学生に110番通報の体験を実施、普段から携帯電話を持たず登下校している小学生には新鮮な体験のようでした。また、大人に人気があったのが1970年代に現役として活躍していたCB750P(白バイ)の展示でした。とりわけ1日目に実施した防犯ジャーナリスト梅本正行先生の講演時間には用意した席が満席となりました。



展示会の様子②

2日間を通して会員及び各社のコミュニケーションもとることができ、その後の活動にも反映しています。新型コロナウィルスの影響があり未定ではありますが、会員も増えていることもあり、今年度も展示会について検討をしております。

また、展示会の後には街路灯などに使うポール製造メーカーの工場や大手通信企業の施設見学も行い、会員がお客様に商品を提案する際のサポートとなれるような活動を実施しております。事務局の企画で災害被災地への研修バス旅行なども実施し、防犯・防災にワンチームで提案し対応できる群馬県防犯設備協会として頑張っております。